



UV
Under Village
PRESENTS
ADULT ONLY

小惡魔
アホな
吉田尚也

AHONA
PLANNING

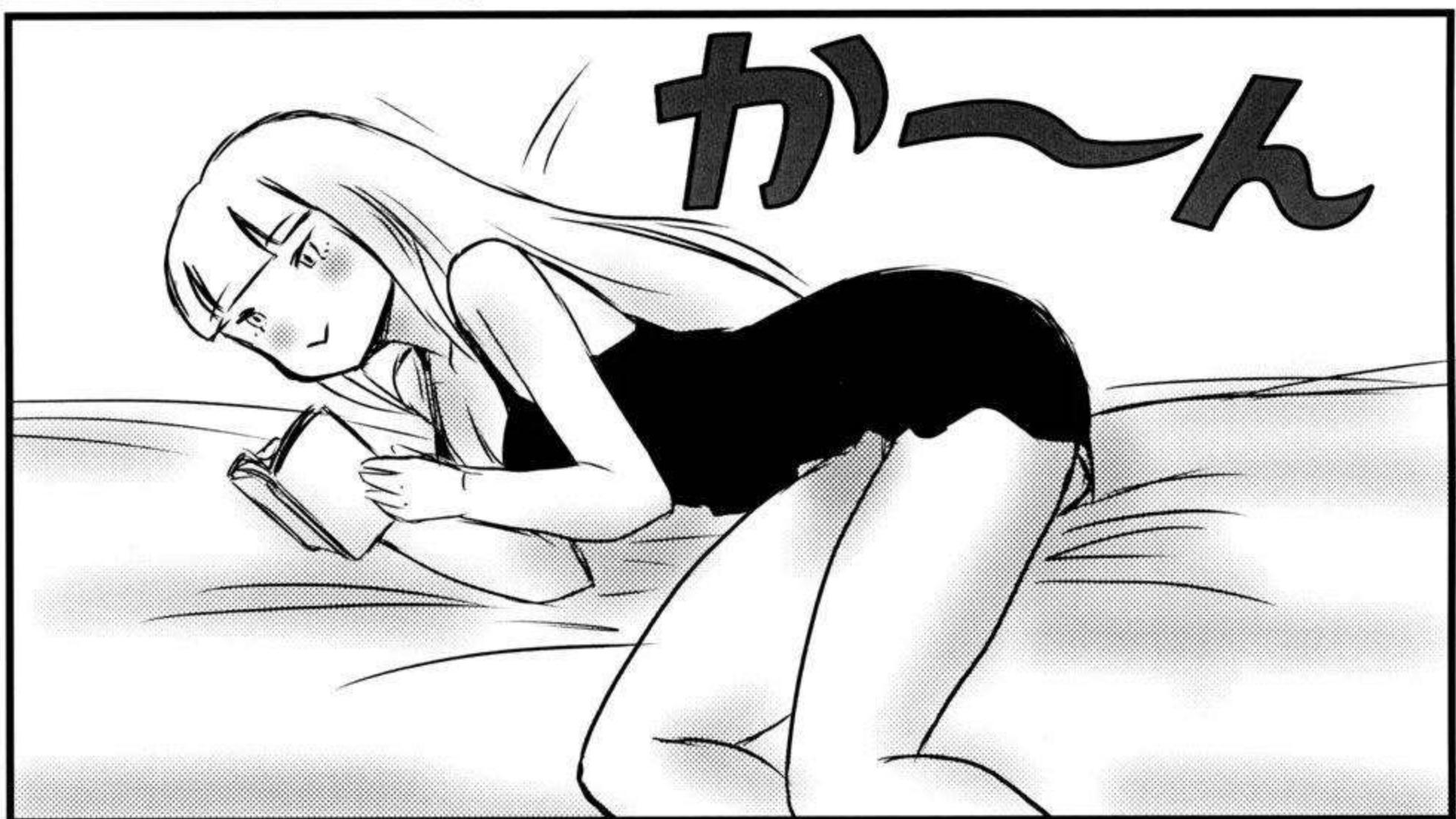


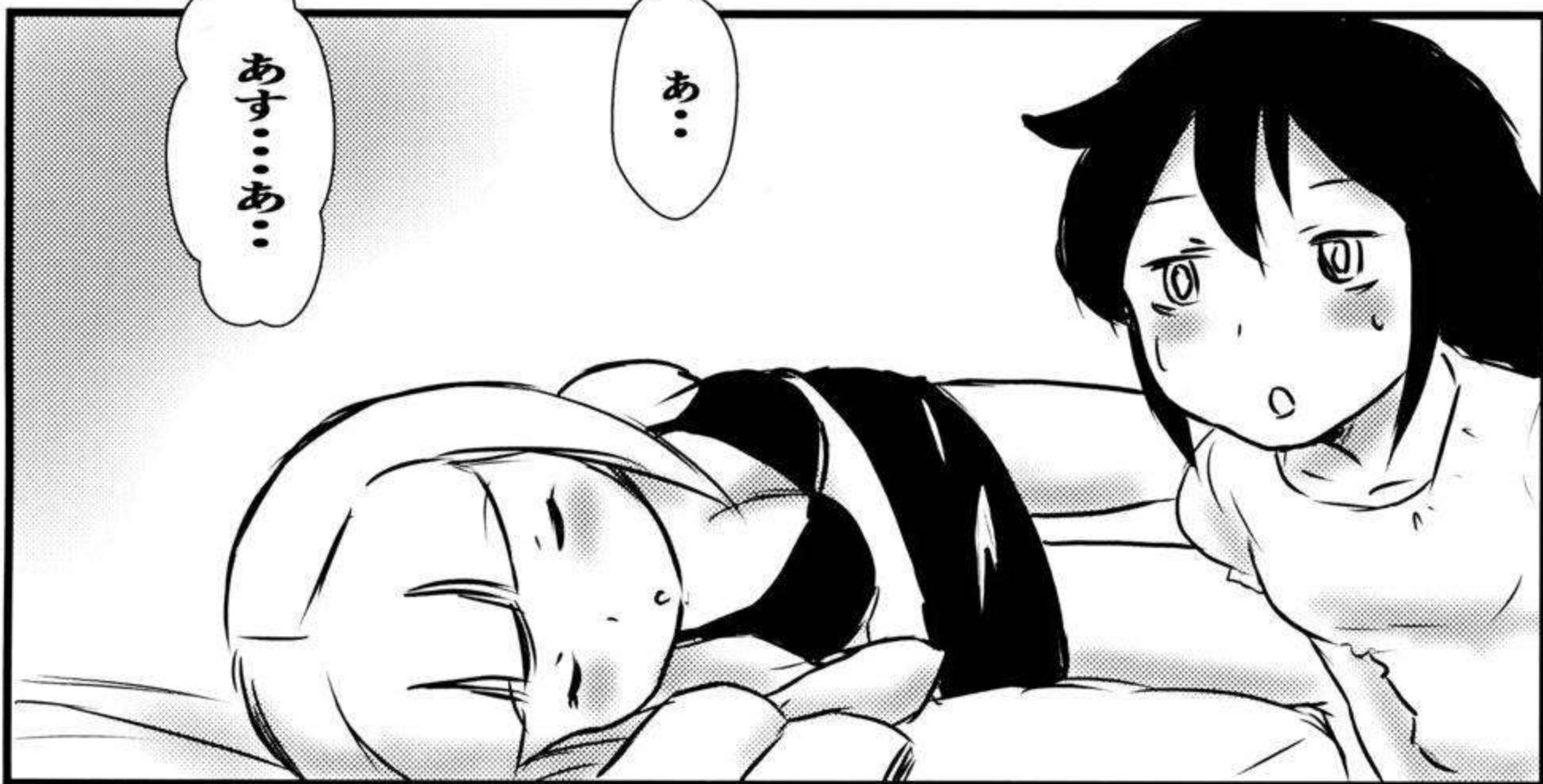
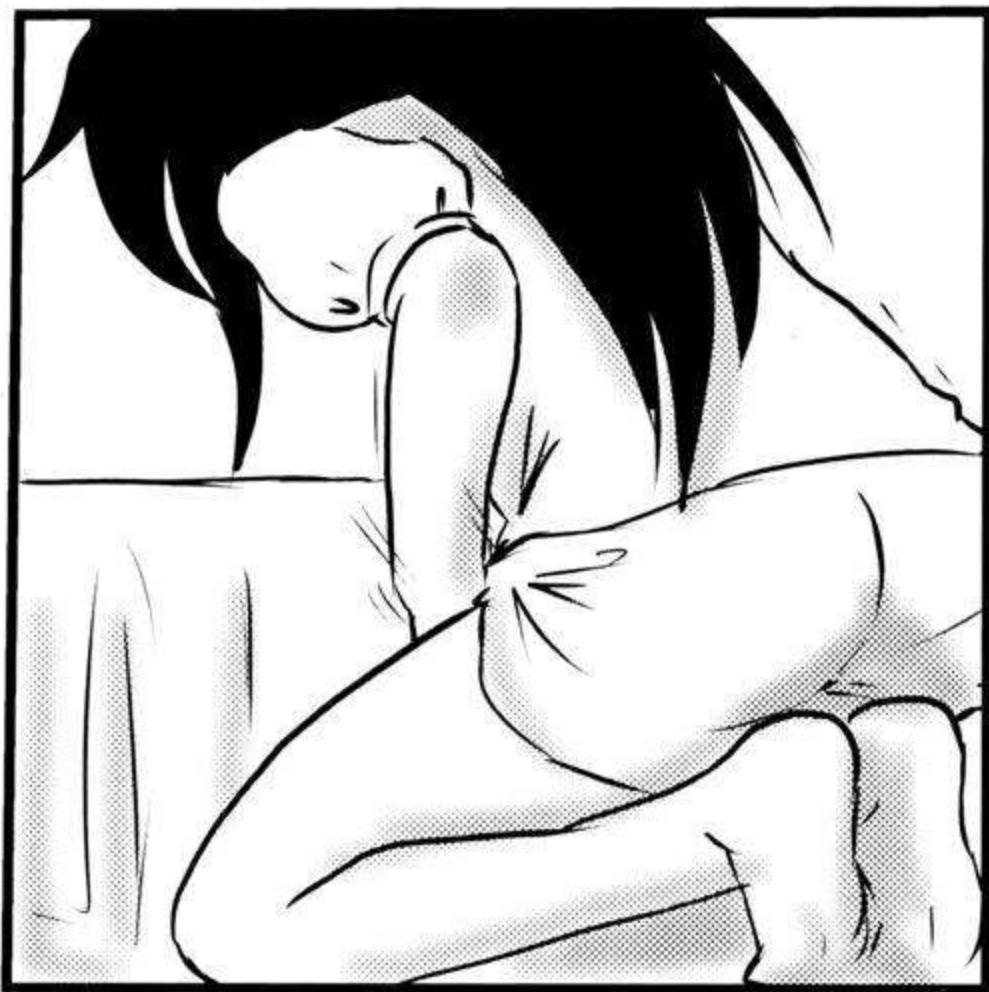
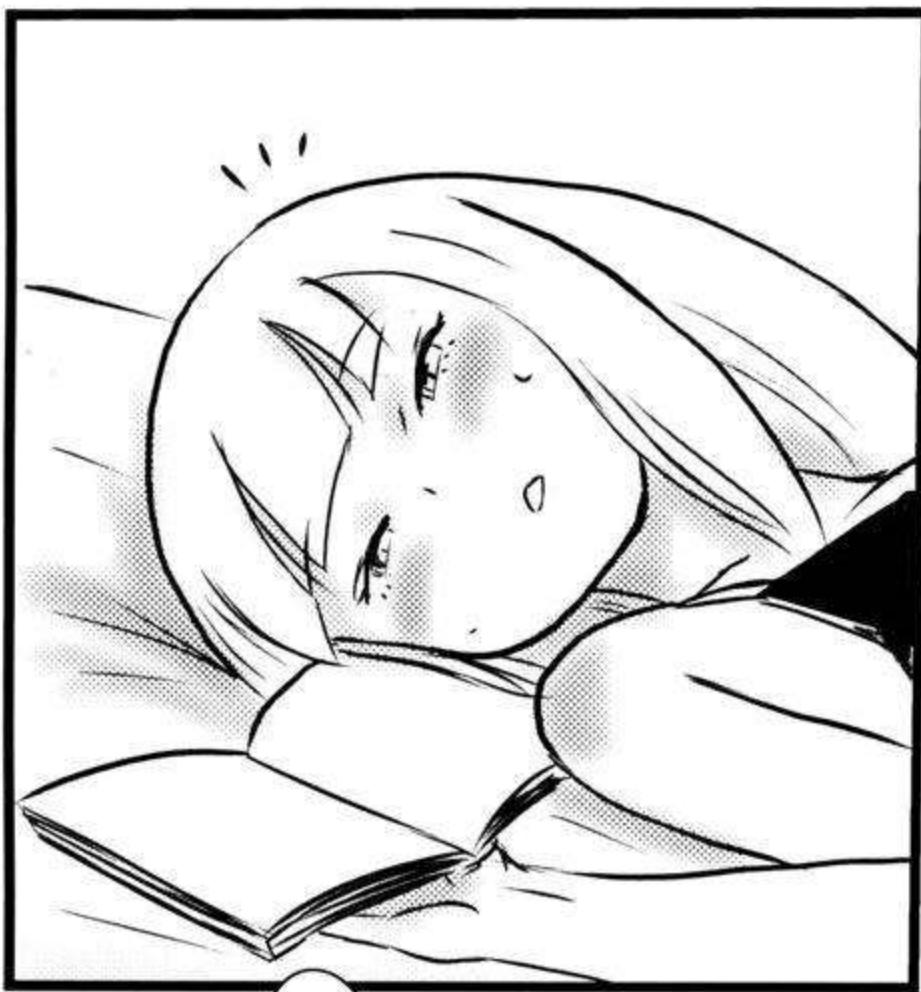


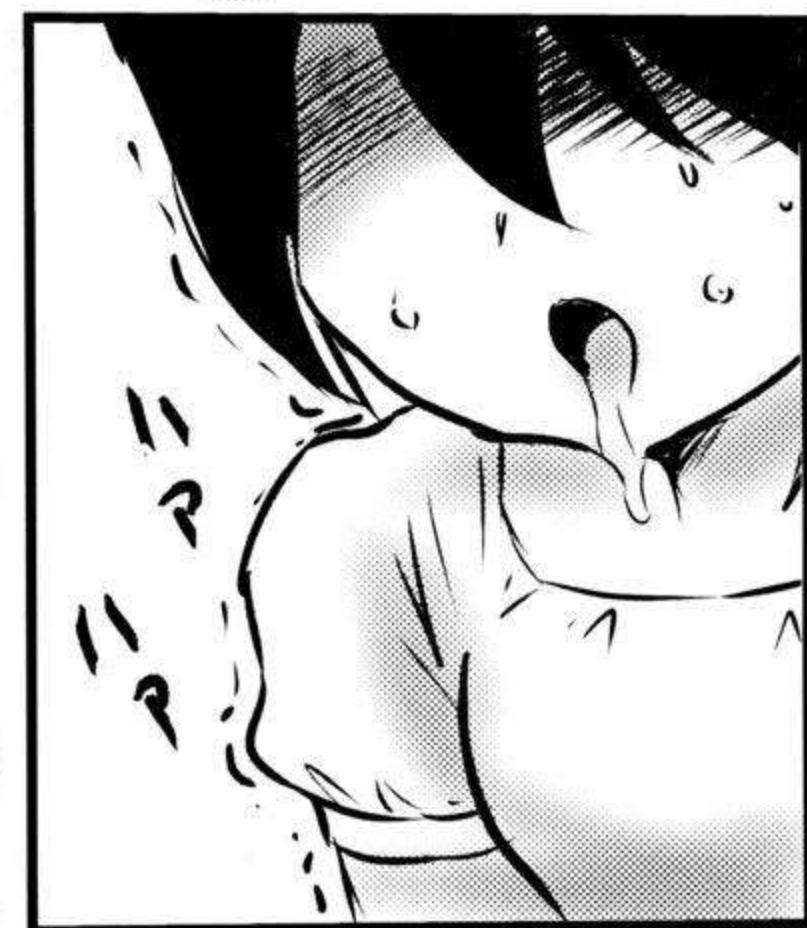
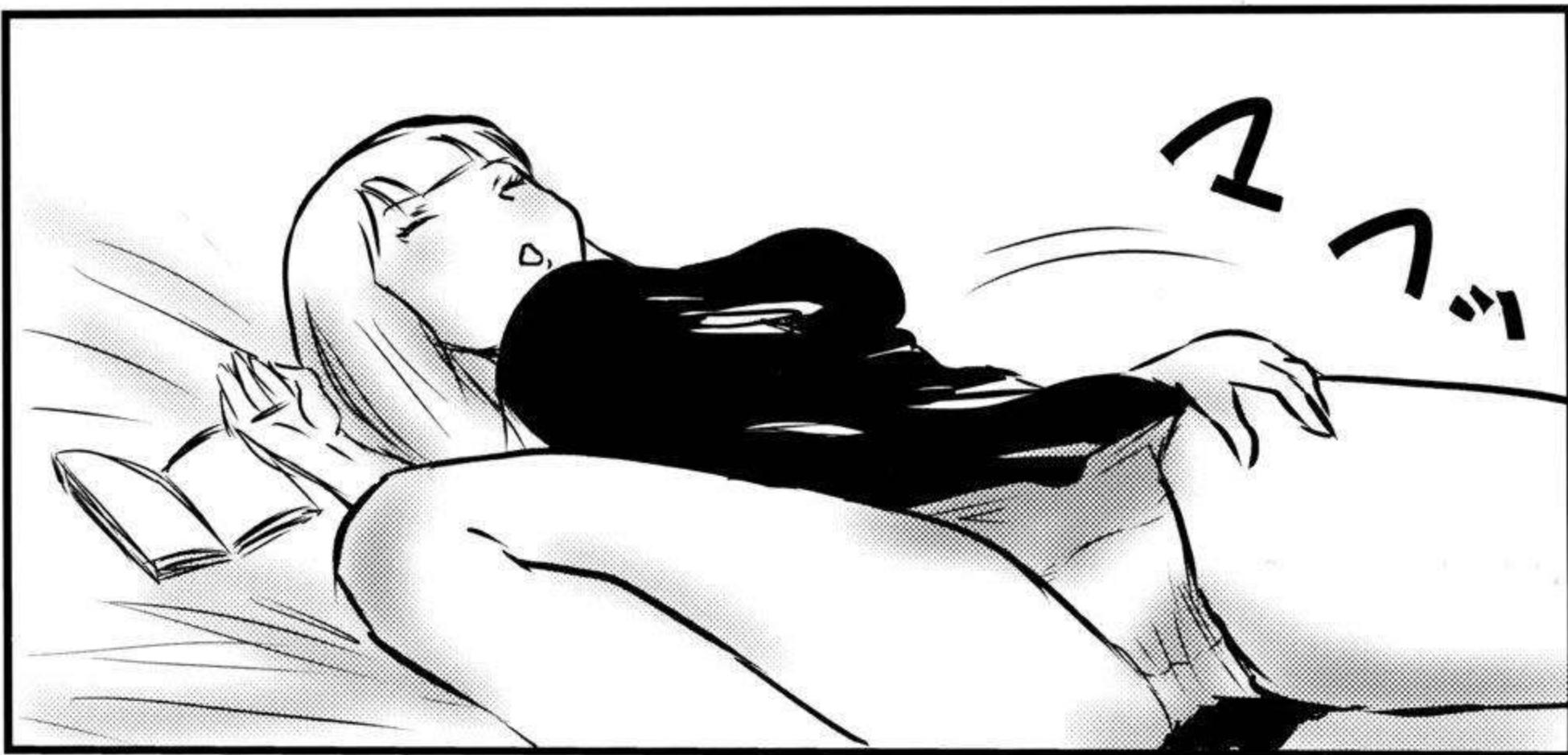
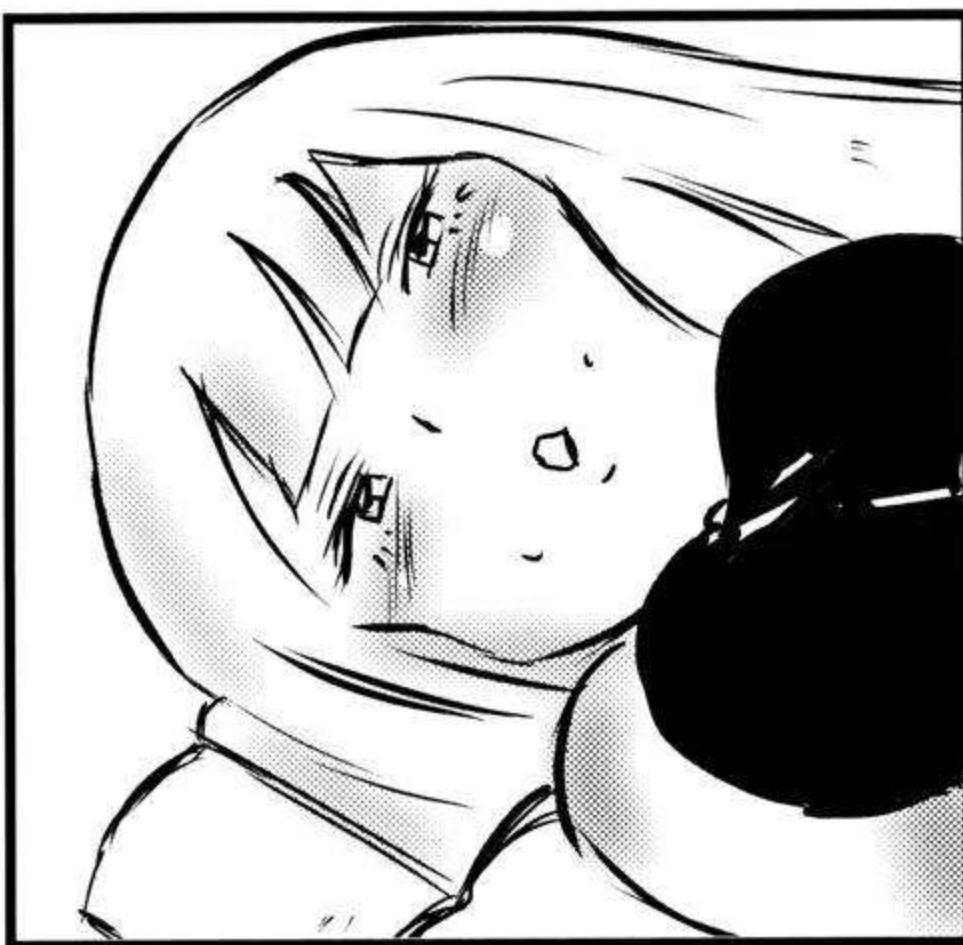
小惡魔

暴走少女

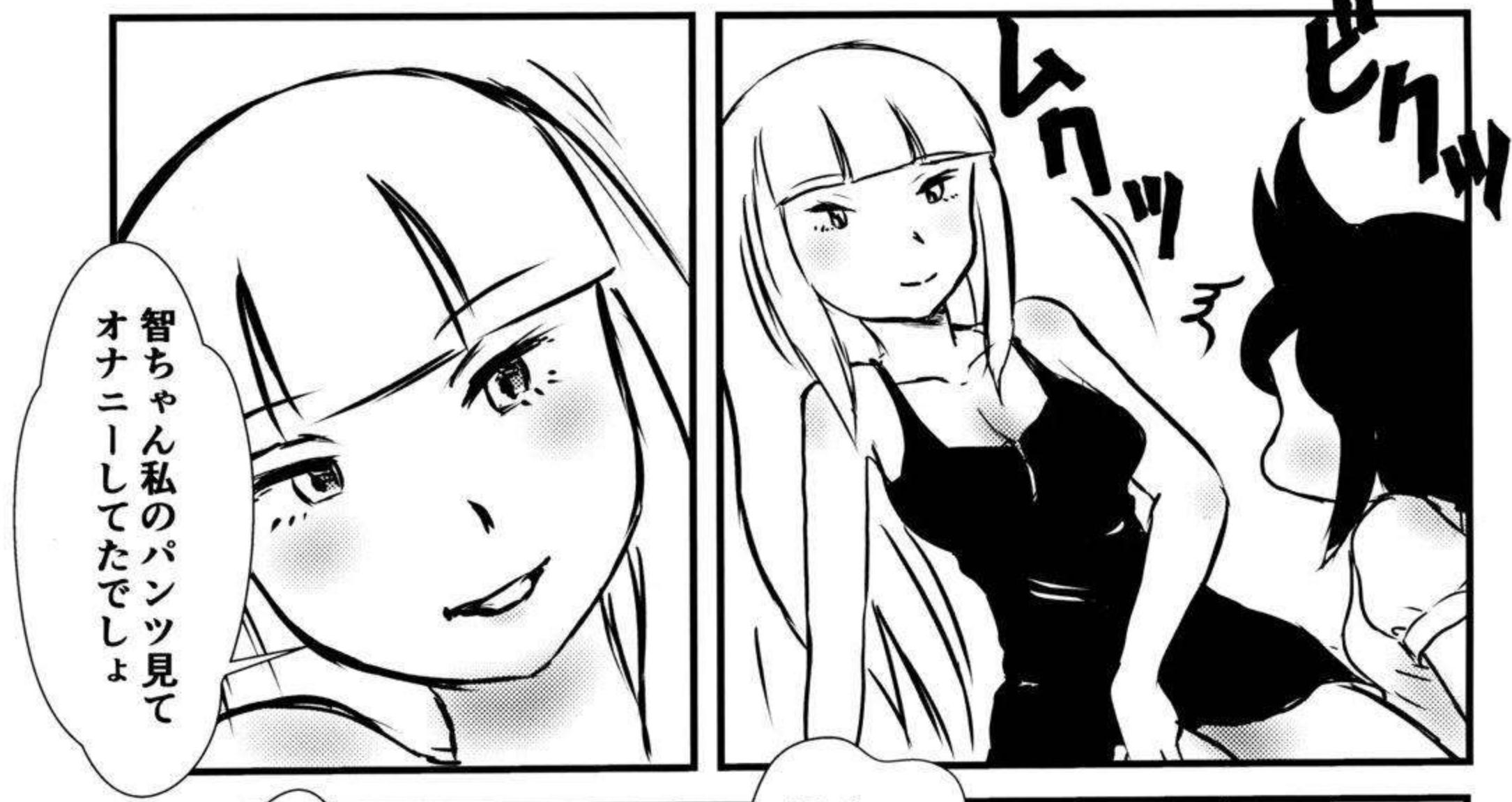


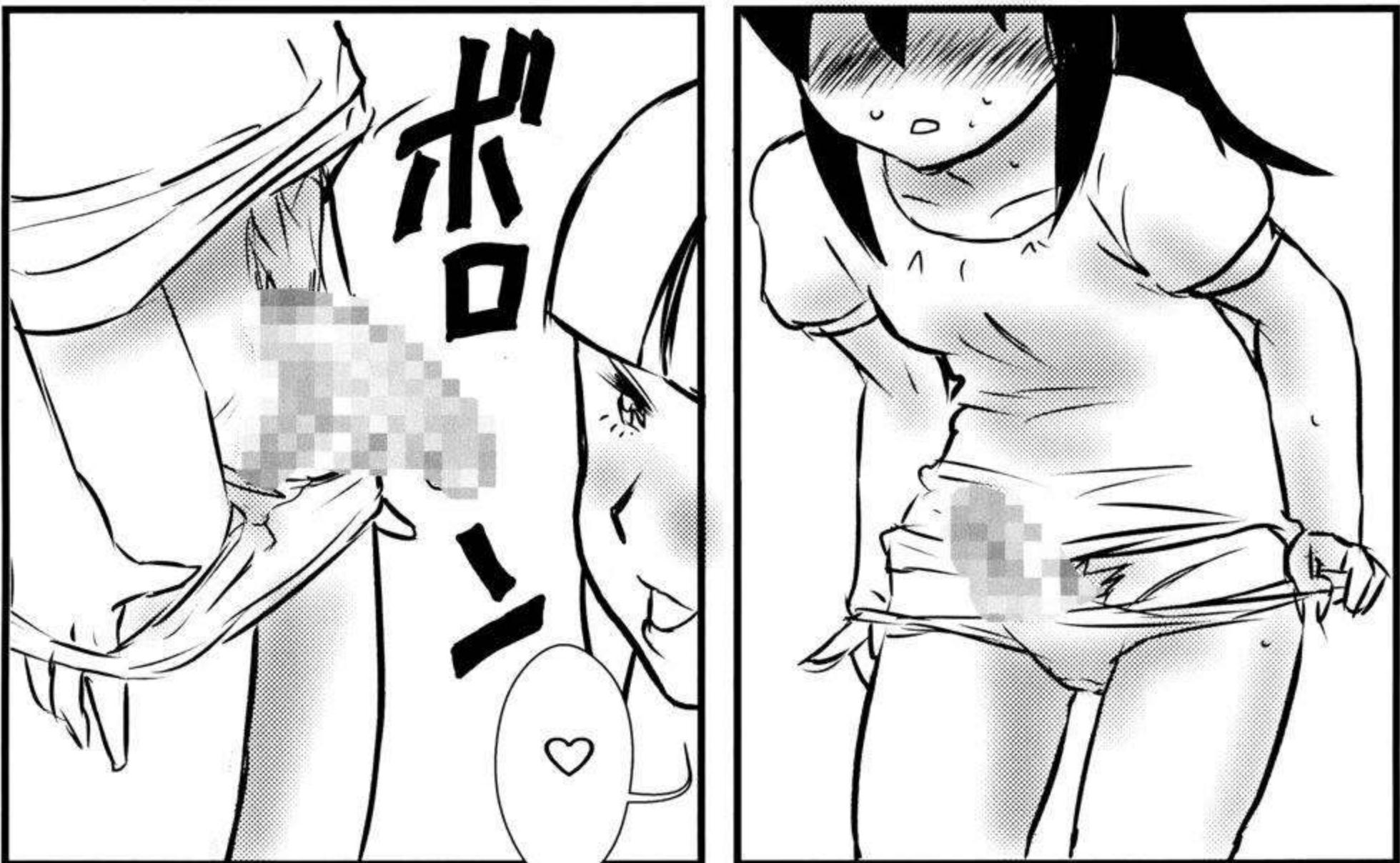
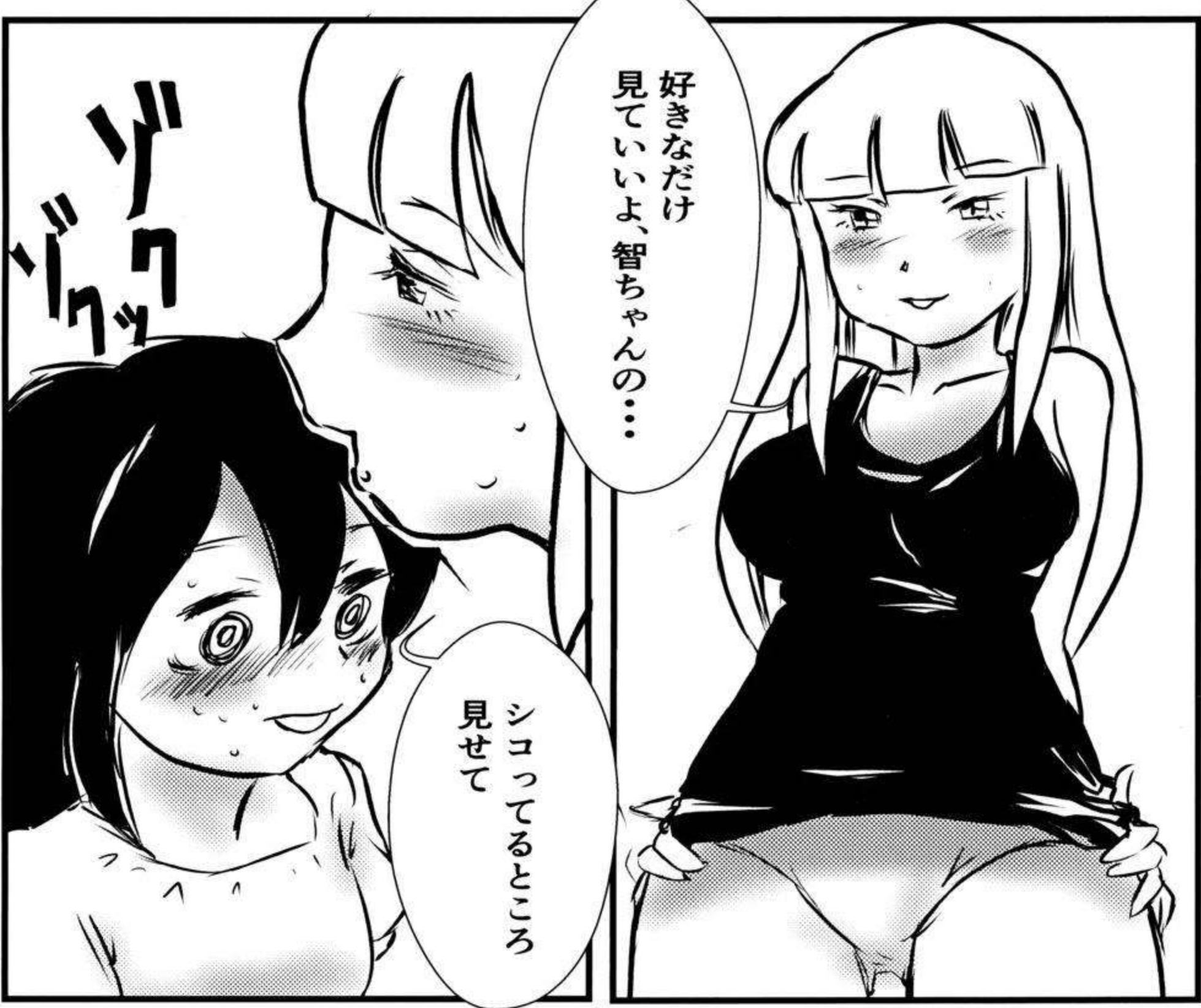


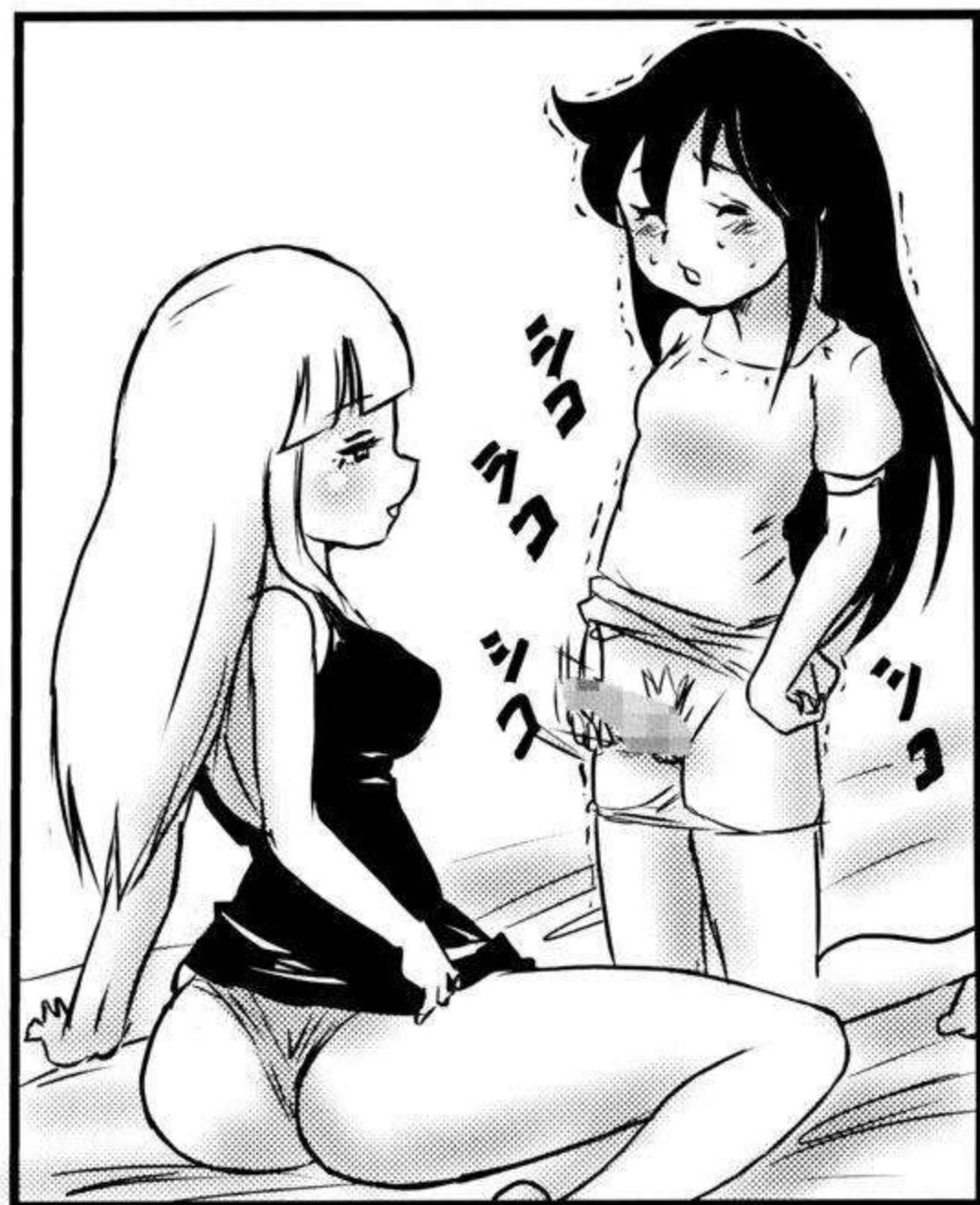
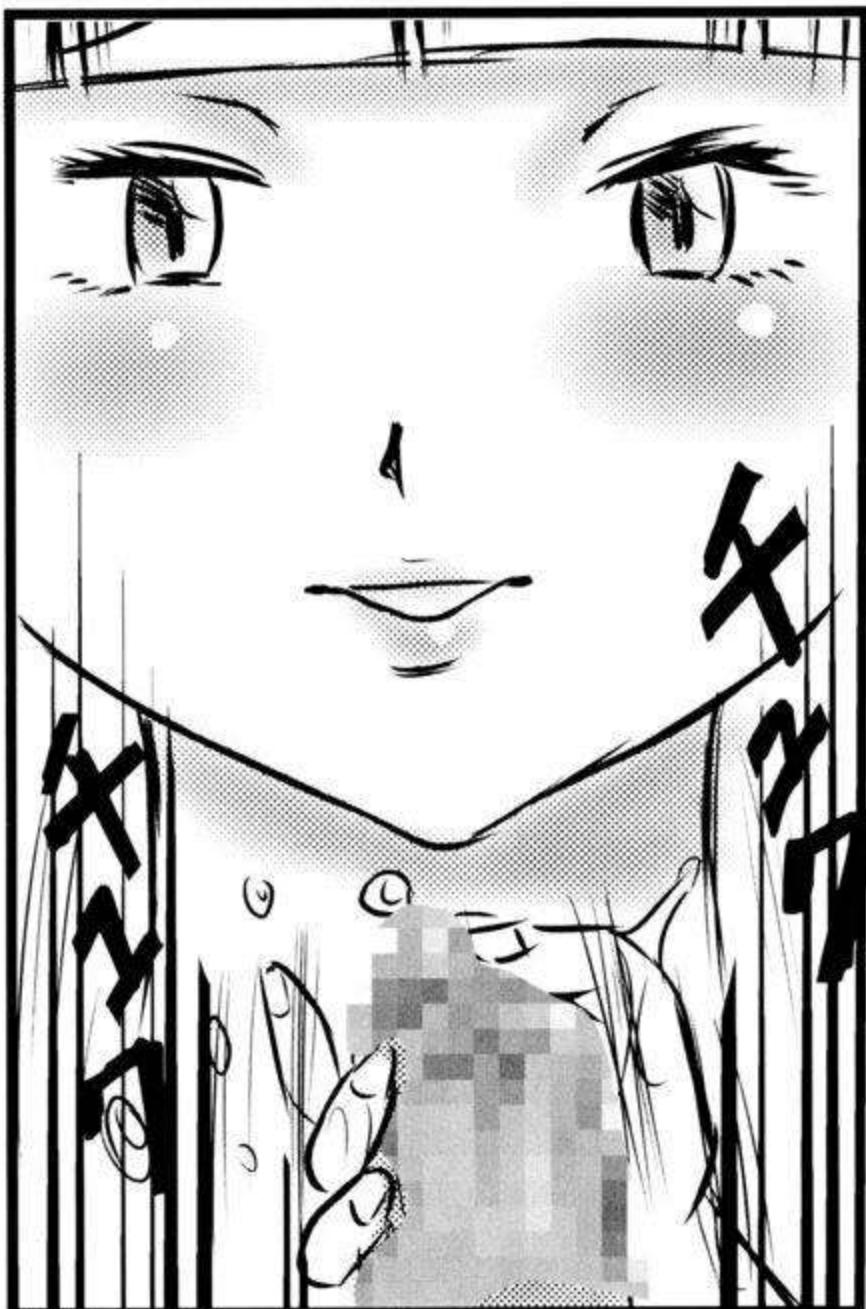












「美保さんのパン見てえ…」

ホテルの個室トイレで智子は思わず声に出していた。

受験勉強アカデミーの合宿で来たホテルで同室になった、成田美保と大浴場で下の話になつたとき聞いた、デリケートゾーンの脱毛の話を聞いてから、気になつてしまふがなかつたのだ。

大きなホテルのこの部屋では3つベットが並んでおり、美保、風香、智子が並んで寝ていた。

前の日に智子がトイレにいるにもかかわらず風香が寝ぼけて入ってきたので、当然ロックしてこもつてるので、独り言が聞こえるわけはないが、すこし狼狽した。

そもそも、美保は初日に大きなTシャツをワンピースのように着こなすファッショントラチラとミニスカートよろしく智子の目線を固定させたうえ、視線に気が付いた美保がショートパンツを下に履いているのをわざわざめくつて見せてきたりと智子の股間をいちいち刺激していたところだ。

用を足すでもなく、智子がトイレから出ると寝ていたはずの美保が起きており、風香はいなかつた。

「あれ? ひょっとしてトイレ待ちだつた?」
智子は自分がトイレでこもつていたので、「一人がいけなくなり風香はロビーのトイレに行つたのかと想像した。

「ううん、風香は夜食買いコンビニ行つたよ、私も行こうと思つて服だけ着たけど、私の分も買ってきてくれるつて。」
(さすが美女ゴリラ、食欲もてあります)

「そ、そつかー」

ふと見ると、美保はまたTシャツワンピースに着替えていた。
智子はまた日のやり場に困つて、目が泳いでしまう。
(こつちは性欲もてあります)

「そ、そつかー」

ふと見ると、美保はまたTシャツワンピースに着替えていた。
智子はまた日のやり場に困つて、目が泳いでしまう。
(こつちは性欲もてあります)

「ふふ、あ、また見てる。ほんとクロちゃんパンツに目がないね」

「いや、そういうわけでは…。」

美保はわざとそをヒラヒラさせて、チアの動きで腰を振った。

「うふっ、実は今は履いてないよ」

「えっつつ? !」

さしもの智子もこの言葉に耳を疑つたが、完全に美保の股間をガン見した。

「クロちゃんほらほら超びらーん」

美保は絶妙な動きで、パンチラしないギリギリですそを動かして挑発する。

「もう一回! びらーん!」
調子に乗つてひらひらさせていると、手の動きにすそが引っ掛けられあがつてしまふ。
思い切りすそがめくれあがつてしまふ。

「うおおお!」
思わず智子がガツツボーズで叫んでしまうが、見たのは美保のカワイイパンティで智子の期待したノーパンではなかつた。

「…」

「ちょ、何その反応? まさかノーパンだと思つたワケ?」

智子はまた目のやり場に困つて、目が泳いでしまう。
(こつちは性欲もてあります)

「はいてるし」

がつかりリアクションだったが、智子の股間はしつかり反応して
パジャマのズボンをダイグイ押し上げていたがあえて、

智子は興味がないふりをした。

しかし、観察力の特別秀でた美保は智子の変化に気が付いていた。

「…クロちゃん、やっぱりおちんちんがあるのね・お風呂でちらつと
見えてたんだ」

（なつ、クソが…）

智子は自身のふたりを隠すため下の毛を染めてまでして、
ごまかしたのに美保にバレていたことに動搖した。

「私の…見たい・?」

その悪魔の誘惑に智子の体の中でドクンと何かがうずいた。
「風香のパンツや明日香のおっぱいもズリネタにしたんでしょ」
ズバズバと見抜いてくる美保の洞察力に、自分のコミュ能力の
限界を思い知らされながらも股間は素直に反応して、瞬間膨張率で
新記録を達成していた。

「そのかわり、クロちゃんのしてるところも…見たいな」

そういうと、美保は、両手で抑えていたワンピースのすそをゆっくりと
まくり上げて、自身の白くてぴっちりとしたパンティを見せつける。

智子はすでに自分の股間を押さえて隠しつつ揉みしだいていたが、目の前に
おいしそうな、おかげを吊るされては、やらないわけにはいかない。

両手で素早くズボンを下すと、もうそこそこ大きくなつた
ペニスがボロンと顔を出す。陰毛が銀色で何かの冗談のようにも見える。

「うわあ、本物だあ、近くで見ていい？」
美保はいたずらっぽく笑いつつ、いつものベースでぐいぐいズイズイくる。

「こんなに皮が余るものなの？」
智子のペニスは皮オナニーのし過ぎで包皮が余り気味なので

、美保には新鮮だったようだ。
「他のは見たことないから、わかんない」

ちゅくちゅくつ

いつもの調子でペニスを皮ごと翻る智子、その目と鼻の先には、顔があつた。

「へえ、そんな早く扱いちゃうんだ」

「さ、最初はこれぐらいでも平氣だけど、感じてくるとこの速さはヤバイけどね
「み、美保さんも見せてよ」

「クロちゃん、目がえろーい」

とか言いつつも、美保はしゃがみこんで、ゆっくり足を広げ始めた。

ちゅくちゅくちゅくちゅくちゅく

いつの間にか包皮の中が透明な液体で満たされて、

自然手の動きも加速していく。

「わあ、はやーい！パンツだけでそんなに？気持ちいい？」

うつとりと目を細めて自慰行為に浸る智子は、

言葉にしなくてわかるほど感じていた。

美保は自分のパンティに手を当てるとき、ついつと指でなぞりながら

「中も見たい？」

くいっと、パンティの縁から指を入れると横にずらして秘部を
あらわにした。

それは智子の期待した通りの無毛で剃った後もなく、

きれいなまるで幼女のような

つるんとした、割れ目がてらてらと湿り気を帯びて光っていた。

「くうっ！」

智子の興奮は一気に駆け上り、
まだ始めたばかりなのに（それ）が訪れた。

どくつ…どくどくつ！びゅぶつびゅるるつびゅつばっ！
「わっ、でたあ」

智子のペニスから、思った以上の勢いで白濁液が飛び出し
美保の顔面を思い切り蹴躊躇した。

智子の感じた絶頂も今までの一人遊びとは比較できない
快楽が遅い、がくがくとひざから崩れ落ちる。

どくどくどくつ…ぼたぼたつ

「すごーい、こんなに出るんだ…すごい粘り気…

気持ちよかつた？クロちゃん」

「はひ…」

快楽にゆがむ智子は歯の根も合わない状態だった。
ふと見ると、いつの間にか帰ってきた風香が立っていた。

「これが、SEXか」

「違う」

「ひがう」

あとがき

こんにちは、KANERU-Sです。今回、またまたワタモテ本ですがクリスタで全部描いてみました。
紙やインクやペンを使わないで描いたという意味です。今さら?という人もいるかとは思いますが
ザ・昭和な私にはずいぶんな革新でした。最初はペン入れになれなくて表紙は鉛筆線で描いてますが
何とか本文はGペンで描けるようになります。ただ背景はいろいろ使いこなせなくて無理でした。
次回までには背景も描けるように頑張ります。まだクリスタを使いこなしてない&
時間的な問題で明日香さんの服もシースルーにできませんでした。
ほんとはスケスケのエロも出したかったんですが、
今回はすみませんってことで。
2Pだけのノベルも漫画で描きたかった
ネタのノベル版です。
とにかく、まあ、なんとか今回も出せました。
次回もよろしくお願いします。2022. 吉日



二郎系にすっかり夢中な明日香さん

誌名 小悪魔ドクドクもんすたあ

発行 あんだあ☆びれっじ/KANERU-S

印刷 株式会社ポプラス

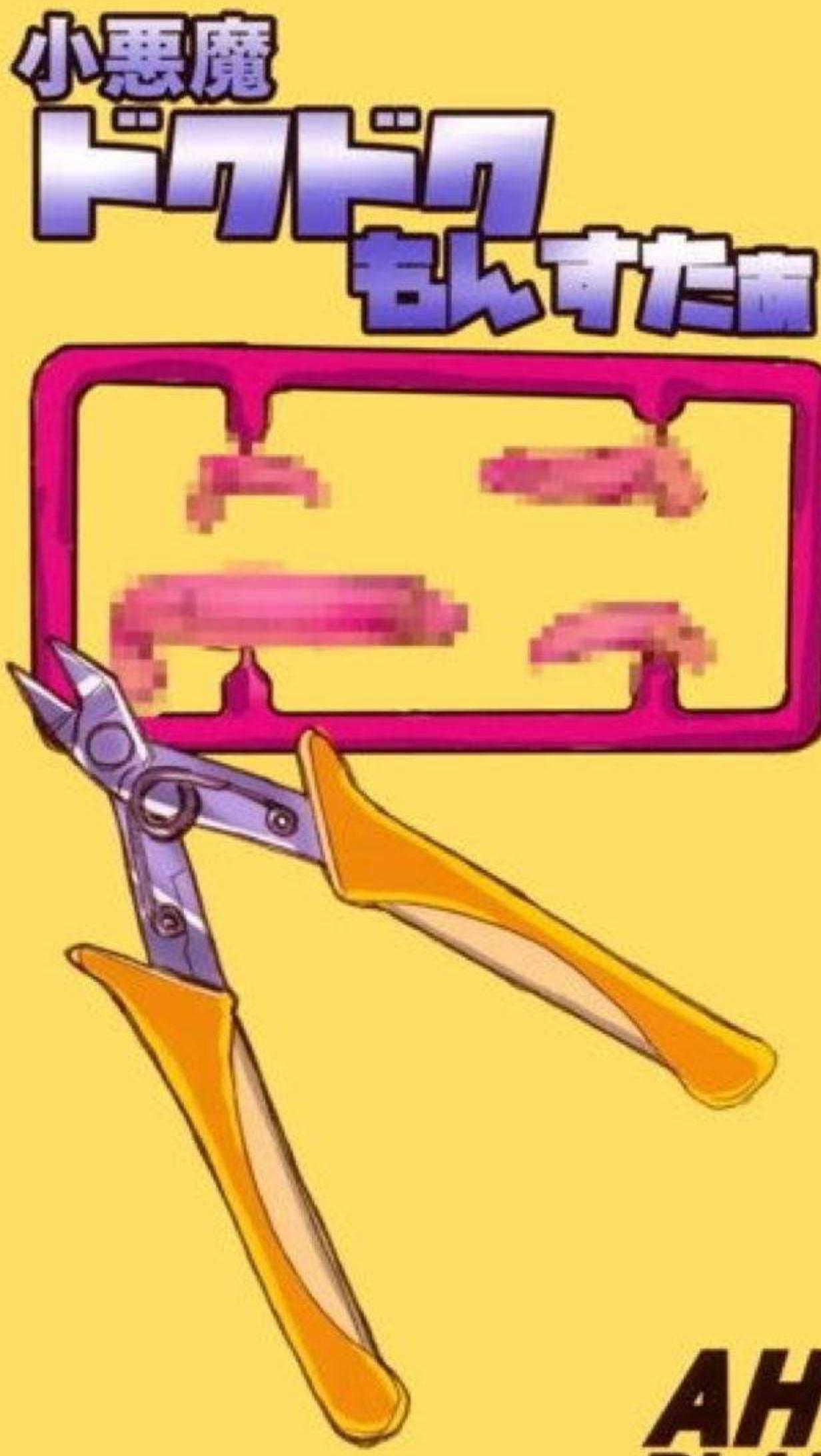
発行日 2022年 11月

本誌の図画・文章の無許可の引用・転用
を禁止いたします。

462-8799 名古屋北郵便局私書箱 62号

中部日新気付 あんだあ☆びれっじ編集部





AHONA
PLANNING